

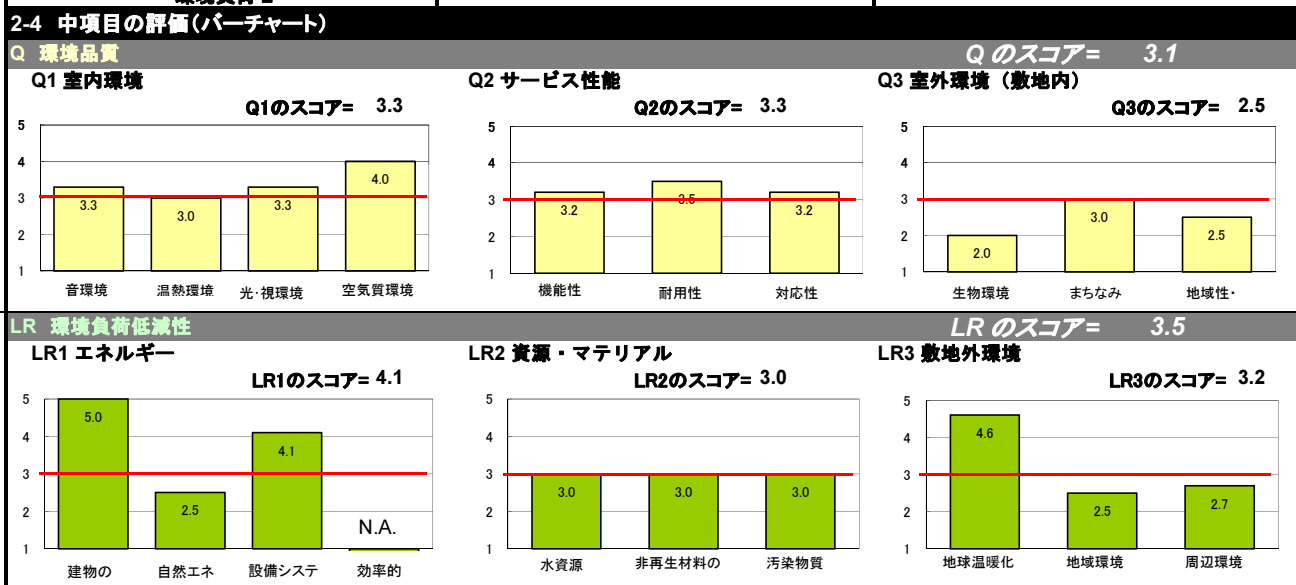
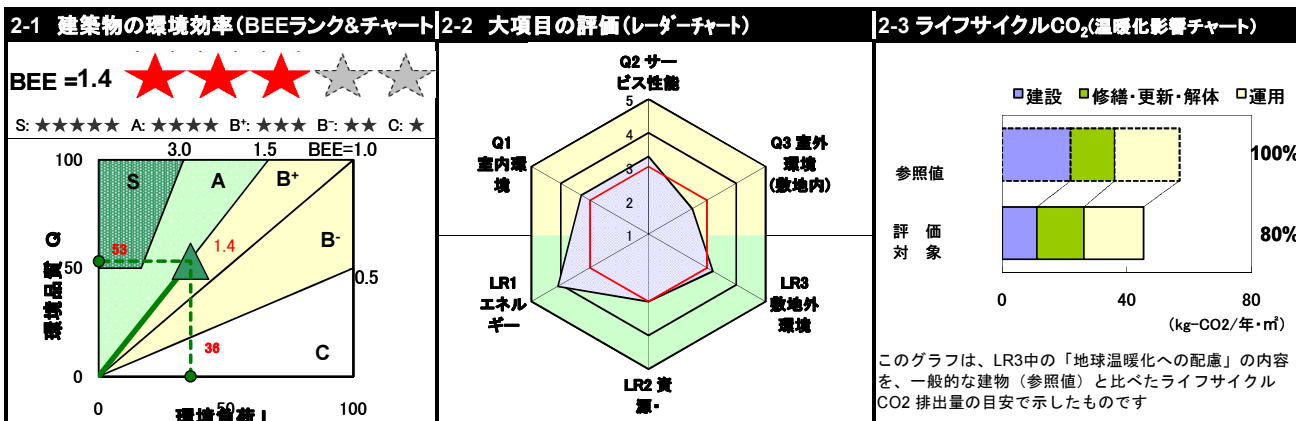


新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	第五東久ハイツ	階数	地上6F
建設地	京都府京都市	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	50 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2010年9月 予定	評価の実施日	2009年10月30日
敷地面積	841 m ²	作成者	望田 実
建築面積	593 m ²	確認日	2009年10月30日
延床面積	2,332 m ²	確認者	国松 孝幸



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
社会的ストックとしての良好な賃貸集合住宅の実現 ・安全で快適な居住環境の提供。		特になし。
Q1 室内環境 防音対策: 防音サッシ(T1・T2)を採用(住戸部は防音サッシ(T2)を採用)。 シックハウス対策: 全ての仕上げにおいて、告示対象外又はF☆☆☆☆を使用。	Q2 サービス性能 情報通信の高度化への対応: ブロードバンド対応、将来用予備配管を設置。 耐震性の向上: 建築基準法の1.2倍の耐震性を確保。 耐久性のある外装材料を選択。	Q3 室外環境(敷地内) できる限り緑を確保する: 一部屋上緑化を採用。 防犯性の配慮: 1階に住戸を設けない。防犯カメラで死角を少なくする。
LR1 エネルギー 建物の熱負荷抑制: 日本住宅表示基準「5-1 省エネルギー対策等級」における等級4に該当させる。 設備システムの高効率化: LED照明器具を多用する。	LR2 資源・マテリアル リサイクル材の使用。	LR3 敷地外環境 熱的な影響を低減する対策: 一部屋上緑化を採用。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される